

1. Report No. UMTRI-2014-36		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 米国の車社会はピークに達したのか？ Part 6: 道路輸送と経済活動の関係				5. Report Date December 2014	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2014-36	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes Information about Sustainable Worldwide Transportation is available at http://www.umich.edu/~umtriswt .					
16. Abstract このシリーズの前の 5 つのレポートでは、軽量車両（乗用車、SUV、ピックアップトラックとバン）の登録数、走行距離に対して消費される燃料、の最近の変化を調査した。分析の単位は、絶対数と一人あたりの比率、ドライバーあたりの比率、一家あたりの比率、そして一台あたりの比率とした。これらのレポートの主な発見は、それぞれの比率全てが 2004 年付近で最大値に達していたことであった。私は、これらの比率の減少の始まりが景気後退（2008 年）よりも先に生じていることから、これらの比率の減少はおそらく社会における根本的な非経済的な変化を反映していそうだと論じた。従って、これらの最大値は長期的なピークであることの合理的な可能性がある。 本研究では、第二次世界大戦終了以降の、道路輸送と経済活動の関係を調査した。関心のある 2 つの測定は、インフレを調整した GDP についてのすべての車両での走行距離とインフレを調整した GDP についてのすべての車両で消費される燃料である。 本研究の主な発見は、GDP あたりの走行距離が 1970 年代初期から 1990 年代初期まで、幅広い範囲でその最も高い値に達しており、そして、着実に減少したということである。2012 年までに、この測定の値はその最大値から 22%減少した。そして、それは 1977 年の値に達した。この測定値の最近の低下に寄与したと思われる要因としては、個人輸送量の減少、トラック輸送の GDP に対する寄与の減少およびデータ・サービス、情報処理と電子商取引の GDP に対する寄与の増加である。GDP あたりの消費される燃料の量は、1970 年代初期にピークに達し、そして、2012 年までに 47%減少した。この測定値の比較的急な低下は、1970 年代からの車両燃費改善の更なる寄与を反映している。					
17. Key Words 車両、車社会、走行距離、移動距離、燃料消費、GDP、経済、長期トレンド				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 10	
22. Price					